

文部省科学研究費交付と研究主題

昭和47年度

野村浩道：カエル舌化学受容器に対する化学修飾剤の効果，生物物理総合研究A（分担）78,000円

昭和48年度

野村浩道：カエル舌化学受容器のトランスデューサー機構，生物物理総合研究A（分担）72,000円

中村 武：歯周疾患に関連する歯芽嫌気性菌の産生酵素，総合研究A 歯周疾患と微生物（代表清水文彦）（分担）102,000円

千野武広：舌癌の発生病理に関する実験的研究．とくに義歯の影響について，一般研究D 400,000円

筒井 稔：歯質に対する弗化物応用の透過効果確認に関する研究，奨励研究A 300,000円

中央研究施設の現況報告

中央写真室

本学に中央写真室が設置されてからおよそ1年半，この間現有の設備で処理された作業量はかなりの量にのぼり，その詳細は次の通りである．

白黒ネガ	6,980枚
白黒スライド	3,125枚
カラーネガ	1,150枚
カラースライド	7,147枚
カラーホイル	3,752枚
カルバー	256枚
白黒プリント（手札換算）	4,550枚
カラープリント	456枚
白黒フィルム現像	35本
カラーネガ現像	45本
カラーリバーサル現像	352本

また，作業量を月別に分けると次第に増加の傾向が見られ同時に医学写真としてより専門的で高度なものが要求されつつある．

中央写真室の使命を十分にはたすためにはス

タッフ一同医学写真専門技術者として一層研鑽を重ねる心構えであるがより良き写真を作成するために万能顕微鏡，大型カメラ，照明装置，接写装置等の備品の必要性和早急の整備を痛感している．
（千野，岡本）

動物舎

病院玄関を出ると，左前方にブロック建築で，いかにも邸宅を思わせる建物，これが，動物舎である．当初は眠っていたが，徐々に眠りからさめ，活動期に入って来た．この舎の玄関を入り，右側に足を運ぶと，シャワールーム，脱衣室があり，ここで着がえる．その先は無菌廊下になっている．扉を開くと，準備室，続いて，マウス，モルモット，ラット，ハムスターの飼育室が2部屋あり，約500匹が飼育され，常に適温適湿になっている．

一方，左側に行くと，予備室があり，つづいて，兎と犬の飼育室が各1部屋ある．この2部屋は近代的設備が整備されている．この奥に，消毒室と猫の飼育室があり，小動物と区別して設計されている．さて，中央部は，廊下をはさんで，左側に，管理事務室，その隣に実験室，一番奥に研究室が設けられている．一方，右側は，近代的な洗滌室，つづいて，飼料保管の倉庫，一番奥が，この動物舎の核とも言える部屋で，全て自動化されている機械室である．この機械の動きは事務室で読みとれるようになっている．

さらに，外側には，犬小屋が増築され，羊の飼育小屋も完備されている．このたたずまいも，年を遂って飼育動物の数も増し，より高度なものに進展して行くと思われる．
（服部）

分析室

設立時に購入された分析機械（下記）4点をもとに中央分析室の設置が計画されているが，現在は2階矯正学技工室を借用し機器の利用が行なわれている．

島津マルチパーパス自記分光光度計MPS-502型	
島津分光光度計	UV-200型
島津赤外分光光度計	IR-27G型
島津-コタキ蛍光光度計	UM-S型

利用研究者各人の責任のもとで運営することが